

令和2年度

社会福祉法人 猪苗代福祉会
事業報告書

社会福祉法人 猪苗代福祉会

- 特別養護老人ホーム いなわしろホーム
- 地域密着型特別養護老人ホーム いなわしろホーム
- いなわしろホーム 指定短期入所生活介護事業
指定介護予防短期入所生活介護事業
- いなわしろホーム デイサービスセンター指定通所介護事業
指定介護予防通所介護事業
- いなわしろホーム 指定訪問入浴介護事業
指定介護予防訪問入浴介護事業
- いなわしろホーム 指定居宅介護支援事業
- 障がい福祉サービス事業
- 猪苗代町よりの受託事業
 - ・訪問入浴サービス事業

〒969-2661 福島県耶麻郡猪苗代町大字三郷字寺南 7962 番地 1
TEL. 0242-66-4123 (代)
FAX. 0242-66-4027
TEL. 0242-66-4124 (デイサービスセンター、訪問入浴介護事業所)
TEL. 0242-66-4125 (居宅介護支援事業所)
FAX. 0242-66-4126 (居宅介護支援事業所)

目次

I	社会福祉法人 猪苗代福祉会事業報告.....	3
II	総務課事業報告.....	5
III	第一事業課事業報告.....	11
	i 生活支援領域.....	12
	ii 健康支援領域.....	18
IV	第二事業課事業報告書.....	24
	i 在宅福祉支援領域.....	24
	ii 居宅介護支援領域.....	26
V	委員会報告.....	29

I 社会福祉法人 猪苗代福社会事業報告

1. 理事会開催状況

- 第1回 令和2年5月29日・議案4件 報告事項1件
- 第2回 令和2年8月3日・議案3件
- 第3回 令和2年9月29日・議案2件
- 第4回 令和3年2月15日・議案1件
- 第5回 令和3年3月18日・議案6件 報告事項1件

2. 評議員開催状況

- 第1回定時 令和2年6月22日・議案2件・報告事項2件
- 第2回 令和2年10月6日・議案1件・報告事項3件
- 第3回 令和3年3月25日・議案3件・報告事項4件

3. 法人監査実施

- 令和2年5月25日 公認会計士立会実施
- 令和2年11月19日 中間監査

4. 入所検討委員会

- 令和2年4月22日第三者委員 書面にて・令和2年6月24日
- 令和2年8月19日・令和2年10月
- 令和2年12月16日・令和3年2月17日

5. 地域密着型特別養護老人ホームいなわしろホーム運営推進協議会

- 令和2年7月15日 令和2年9月16日 令和2年11月18日
- 令和3年3月17日

6. 苦情解決委員会

- 令和2年10月1日 第三者委員へ上期報告

7. 入札及び選定会

- 令和2年7月29日 理事1名・監事2名・評議員1名立会実施
- ・地域密着型特別養護老人ホームいなわしろホームのユニット化改修等支援事業工事に係る入札 工期 令和2年8月5日から令和2年11月20日
- ・選定会 令和2年11月26日 簡易陰圧装置設置事業機種及び業者選定

8. 臨検

- 令和2年7月7日 会津労働基準監督署 2名 是正1件

9. 新型コロナウイルス感染症. 緊急包括支援金

- ①新型コロナウイルス感染症対策慰労金支給

令和2年9月30日支給 職員94名 委託業者20名 計114名

②新型コロナウイルス感染症予防対策支援金

10. 新人事制度に伴う人事評価開始

令和2年5月～令和2年12月迄を令和3年3月賞与に反映させる。

令和2年7月16日 評価者研修を実施。

11. 指導監査

- ・障害者総合支援法に基づく書面指導 (短期入所) 指摘無
- ・社会福祉法人法に基づく書面監査 (法人) 指摘無
- ・介護保険法による書面指導(地域密着・居宅・介護予防通所)

12. 消防署の立ち入り検査

令和2年11月13日 指導無

13. 福島県応援職員派遣事業

- ・田島ホームクラスター発生に伴い、南郷ホームへ応援 令和3年2月1日から2月3日
1名派遣

14. 特別養護老人ホームにおける感染防止対策の状況確認等による訪問調査

令和3年2月18日 会津保健福祉事務所 2名・猪苗代町保健福祉課 1名

Ⅱ 総務課事業報告

○ケアを高める事業

項 目	内 容
担当者会議	担当者会議に 24Hシートの見直しを図る
個別ケアの見直し	ケア向上委員会において個別にケアを見直す
いなわしろホーム 作品展の開催	毎月項目を変えた作品展を開催する。利用者様が特技を生かして、作品展の出展を目標にしてもらう。 8月塗り絵 参加者 32名 9月川柳、俳句 参加者 6名 10月編み物、裁縫など 参加者 31名 11月塗り絵 参加者 23名 12月俳句、川柳 参加者 6名 1月習字 参加者 31名

■担当所見

- ・24Hシートの活用の仕方、個別ケア、ケアの統一を考えたときに必要であるかどうか理解できないと浸透されない。ユニットリーダー研修で学んできたことを浸透するには介護員のユニットリーダーの力が必要である。
- ・いなわしろホーム作品展では1人数枚も取り組む姿がみられていた。参加者の人数で取り組みやすいものがわかった。表彰状や参加賞も喜ばれていた。

○ボランティア活動事業

項 目	内 容
地域に根差したボランティア参加活動	社会情勢によりボランティア募集が中止している。再開を想定しいつでも行えるよう、準備を進める。
ボランティアの受入	感染症対策のため、受入を制限している。制限解除に向けて協議を重ね、受入体制を整える。
施設のボランティアニーズ発掘	車椅子清掃やガラス拭き等ボランティアにより行っていたが、その他、ニーズを発案しボランティアを募集、広報する。

■主担当者所見

社会情勢によりボランティア活動は停止している状況であるが、再開に向けて準備をしている。情勢が好転すれば参加、受入共に活動を再開したい。

○人財を育成する事業

項 目	内 容
人財確保に向けた取り組み強化	広報委員会にて求人パンフレット、ホームページについて検討。
人財の定着	新任職員研修の実施。

	4月20日1名、8月17日1名、10月19日・20日1名、 11月2日1名、11月16日1名
--	---

■主担当者所見

求人パンフレット制作やホームページの見直しについては、引き続き総務課にて進めていく。人材定着については現在入職時に新任職員研修を実施しているが、新任職員研修の内容見直しやその後のフォロー、プリセプターの育成が課題である。

○地域福祉を増進する事業

項目	内容
地域ふれあい事業・ミニふれあい事業について	新型コロナウイルス感染症により外部に向けての活動を制限
来年度に向けての計画	認知症サポーター講座や、他県の自治体の取り組みを参考に、年代別に合わせ認知症ハウツー本のような冊子またはチラシを作成し、知って頂くきっかけ作りを検討。

■主担当者所見

前年度までの、地域ふれあい事業を振り返り、反省点を再度検討。新生活様式に合った地域との関わりを考え身近に感じて頂けるような福祉事業を目指す。活動内容の検討等。

○その他

■役職員研修受講状況

1. 施設外研修

<役員>

実施月日	研修名	参加人数
9	9 社会福祉法人の経営力強化～財務会計と労務管理～(動画配信)	1
	16 猪苗代町障がい者自立支援協議会委嘱状交付式並びに令和2年度第1回猪苗代町障がい者自立支援協議会	1
	28 安全運転管理者講習会	1
12	18 令和3年度介護報酬改定の詳細と事前対策WEBセミナー	1
2	15 令和2年度社会福祉法人運営研修会 (動画配信)	1

<職員>

実施月日		研修名	参加人数
5	29	認知症地域支援会議	1
6	16	介護支援専門員勉強会	2
	18	特定処遇改善加算 実績報告書 解説セミナー（動画配信）	2
7	21	自立支援型地域ケア会議	3
8	8	施設ケアマネージャー研修会（動画配信）	1
	12	介護支援専門員勉強会	2
	15	令和2年度事務職員研修（動画配信）	1
	27	自立支援型地域ケア会議	1
	31	医療介護従事者研修会	1
9	7, 9	社会福祉法人の経営力強化～財務会計と労務管理～（動画配信）	2
	16, 19	令和2年度生活相談員研修会（動画配信）	2
	24	自立支援型地域ケア会議	2
10	6	和2年度居宅介護事業所共同事例検討会・研究会	1
	14	介護支援専門員勉強会	2
	21	令和1年度専門研修Ⅰ・更新研修（専門研修Ⅰ）①	1
	22	自立支援型地域ケア会議	1
11	5	令和2年度機能訓練担当職員研修会（動画配信）	1
	9, 10	令和2年度専門研修Ⅰ・更新研修（専門研修Ⅰ）②	1
	10	令和2年度認知症キャラバンメイト養成研修	1
	11	令和2年度給食担当職員研修会（動画配信）	1
	11	介護支援専門員勉強会	2
	26	自立支援型地域ケア会議	2

12	3	在宅医療介護連携推進のための医療介護従事者研修会	1
	4	看護職員リフレッシュ研修	1
	18	自立支援型地域ケア会議	1
	18	令和3年度介護報酬改定の詳細と事前対策WEBセミナー	1
1	14	居宅サービス事業所連携会議	1
	19	2021年介護報酬改定の全容～改定に対応するために必要なこととは～webセミナー	1
	21	生活支援体制整備事業介護支援専門員研修会	1
2	16	介護支援専門員勉強会	2
	24	令和2年度北海道・東北ブロック社会福祉法人経営青年会第2回オンラインセミナー	1
	24	地域ケア会議	3
	25	自立支援型地域ケア会議	1
3	15, 17	令和2年度経営戦略オンラインセミナー	1

2. 施設内研修

実施月日	研修名	参加人数	
4 13	4月職員会	85	
5 29	5月職員会	85	
6 24	6月職員会	85	
7 20, 21	7月職員会	59	
8	4, 5	臨時職員会	85
	17, 28	新任職員研修	1
	20, 20	8月職員会	85

9	29, 30	9月職員会	48
10	19, 20	新任職員研修	1
	22, 23	職員会	48
11	2	新任職員研修	1
	16	新任職員研修	1
	25, 26	職員会	41
12	17, 18	職員会	44
1	18, 19, 20	職員会	56
	21	ハラスメント相談員研修	7
	27, 28	令和3年度介護報酬改正勉強会	12
2	18, 19, 20	職員会	56
3	22, 23, 24	職員会	48

3. 資格取得支援

No	対象資格	対象者
1	喀痰吸引事業者登録	3名

4. 地域密着型運営推進会

実施月日	会議名	出席人数
7 15	第1回運営推進会議	10
9 16	第2回運営推進会議	7
11 18	第3回運営推進会議	8
3 17	第5回運営推進会議	8

※令和3年1月20日第4回会議は町内にて新型コロナウイルス感染症発生の為中止

5. ボランティア参加

		派遣事業名	場所	参加人数	内容
—	—	—	—	—	—

6. ボランティア受け入れ

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

感染症予防のため参加、受け入れを見合わせ。

■実習等受入状況

No	期間	内容	派遣機関	受入事業所	受入数	延人数
1	8/6	小、中学校初任者研修	猪苗代町教育委員会	デ`イ`ビス	4	4
2	8/6	幼稚園等経験者研修Ⅱ	猪苗代町教育委員会	デ`イ`ビス	1	1
3	8/7	小、中学校初任者研修	猪苗代町教育委員会	デ`イ`ビス	4	4
4						
5						
6						
計					9	9

体験学習は、高齢者施設が初めてという研修生が多く、また、研修期間が短いことから「楽しかった」と感じてもらい、体験後も興味関心を持ってもらえるよう原則デ`イ`ビスでの受け入れを図った。

7. 面会状況

月	10回以上	1回以上10回未満	なし
人	6	43	31

※3月1日～コロナウィルス流行により感染症予防の為、面会制限

※6月8日～オンライン面会スタート

※11月1日～窓越し・zoom面会スタート

Ⅲ 第一事業課事業報告

一 事業計画の現況

○利用者に質の高い介護サービスを提供

項目	内容
個別ケアの充実	個別ケア計画の作成、実施
地域交流促進	地域への情報発信、ご家族様とコミュニケーション強化
職員のみる目の成長	体調の変化等、早期発見と早期対応
楽しい生活空間作り	おもいやりのあるケア提供、そのための知識、技術取得
情報共有強化	システム構築
業務効率化	介護ロボット、IoT の活用
家庭的で高品質のケア	改修工事によるハード面向上
ユニットケア充実	24H シート等の作成、調整
穏やかな生活環境提供	プライベート環境の構築
認知症ケアの充実	認知症対応の再認識と実践。実践者研修 2 名以上参加。実践者研修終了者のリーダー研修参加で資格取得
喀痰吸引実施人員強化	介護福祉士の喀痰吸引研修参加
入院期間の短縮化	病院との連携を図り、早期入院早期退院を実施
ターミナルケアの充実	マニュアル見直し、研修振り返り
施設独自の個別ケアの実施	高品質で個性をいかした生活支援の実施
介護員福祉士取得を推進	初任者研修や実務者講習の参加支援

■主担当者所見

・個別ケアの充実を目標に掲げたが新型コロナウイルス発症拡大によりほぼ外部研修が中止になりスキルアップの機会が減ってしまったことは残念なことです。

オンライン会議や内部研修によって少しでもスキルアップを図りケアの充実に対応しているところです。

・感染予防により制限された生活を入所者様が、少しでも楽しく生活できるように安心・安全なケアでサポートできるようにこれからも取り組んでいきます。

・新型コロナウイルスの影響が大きく、今年度出来なかった事が多かった。次年度は介護保険の改正もあるので、新しい委員会体制づくり等検討しながら対応していく。

・これからも施設での新型コロナウイルス対策を実施し、安全で高品質な生活の提供を念頭にケアの実践をしていきます。

i 生活支援領域

一 事業計画の現況

○ワンチーム（協力とスキルアップ）

項目	内容
1、個別ケアの充実	・24H シートの活用、職員の意識改革について、いな研や各委員活動で実践しているが、現状で満足してしまっているスタッフが多いのが現状である。さらに向上を図っていく。
2、スタッフの自己啓発	・新型コロナウイルスの為、外部の研修は殆ど中止となっているので外部研修は難しいが、スタッフ個々が日々のケアの中でスキルアップできるようにする。(達成状況30%程度) ・変化を求めるスタッフが少ないのが現状である。(臨時や嘱託職員の多くが正職員となったが、仕事内容や責任、自覚等が少ない状況にある。)
3、職種の連携	・体位交換や座位姿勢保持などリハビリスタッフの協力、介入で大分良い成果が出ている。今後の課題として、介護員が応用できる力を身に着けること。 ・医療行為はできないが、医療系の知識は必要である。しかし、殆どのスタッフが聞くちからを育成していく必要があると感じられた。 ・入所後の家族とのやり取りの中で、現場で直接対応することが殆どだが、生活相談員には連絡が入らないケースが多い。今後もっと関わりを持つように現場も努力する。
4、介護予防	・生活リハビリについては、ケア向上委員会と協力して一定の成果を上げている。 ・リハビリスタッフの充実で、特にショートステイのリハビリ成果が向上している。
5、ターミナルケア	・看取りの振り返りをしているが、しっかりと振り返る事は出来ているが、なかなか次に繋がらない部分が多い。 ・新型コロナウイルスの影響で、思い描く対応が難しい。
6、地域に根差した施設づくり	・新型コロナウイルスの為外出制限等があり、地域交流がはかれない状況にあった。
7、人材育成	・各委員会を中心にケア向上に取り組んでいる。メンタルヘルスケアなどの研修実施をした。 ・目標である「心を養う」の点では、まだ個別への意識、スピード重視の面で改善が必要である。
8、異常気象や感染症対策	・東日本大震災から10年。いまだに震度4以上の地震も観測されている。日頃から対策や訓練をしているが、細かい部分もマニュアルに落とし込み、全スタッフが理解しておく必要性を再度感じている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの終息が見えない。南会津の特養のように一人の感染者から大クラスター化するのが老人福祉施設なので、感染症予防委員会を中心に、個々のスタッフが自覚を持った行動や対応で感染予防を継続して行く。 ・マスクやディスポグローブなど不足物も多くあった。備蓄していてもすぐに無くなった。備蓄の量の見直しも必要で、もし、園内に感染者が出たら対応できるのか不安である。 ・頼みの綱のワクチン待ちもあるが、連日変異型の報告もあるので、今まで以上の危機意識で生活していく必要がある。
--	---

■主担当者所見

臨時、嘱託職員の正職員登用があり、職員の意識改革もしたかったが、思うように変わらない状況であった。個別ケアの充実を図るため24Hシート等を活用しながら職員を育成していく。また、新型コロナウイルスなどの感染症や地震などの災害において、予防医療委員会や防災委員会、施設物品委員会など、単独で動いている部分を連携して対策を取っていく。

二 取り組み状況

なんといっても新型コロナウイルスの影響が大きい一年であった。南会津の特養でのクラスター発生もあり、日々の業務に加え感染症の対応など苦難と我慢の一年であった。しかし第2波、3波と終息が見えない状況で今後ワクチン摂取等に期待はあるが、先が見えない状況に変わりない。

国のほうから面会制限や外出制限などが施設に対し指示があった。ご利用者様には施設内で出来ることで、刺激づけをしているが認知面の悪化や精神面が不安定になる方も見られている。

国の調査においても高齢者福祉施設において 認知症の悪化が報告されている。

高齢者施設で新型コロナウイルスが発生すれば、クラスター化し、重篤化しやすく生命の危険も高くなる。その為、職員も行動や予防対策には十分注意を払い生活している状況だが、全国的に介護職員の離職者が増えている状況にある。加えて、マスクやディスポグローブなどの不足があり、今までと同じケアの提供が難しい場面も増えている。職員同士工夫をしながら感染抑制にあたっている。

・当施設も地域社会全体の見守りをはじめとする「支え合い」や「助け合い」、インフォーマルなサービスの充実が大変重要になっているなかで、「地域と共に歩み、共に育み、共に生きる」を理念に掲げ、保険者である猪苗代町と協力していく。今後も多様な担い手による介護予防・生活支援サービスの充実を図りつつ、支え合い・助け合う地域社会づくりを目指していく。

三 その他

1. 長期入所・短期入所実績及び前年度比較表

令和2年度				令和元年度			
月	長期入所	短期入所	計	月	長期入所	短期入所	計
4	1750+600	596	2,946	4	1729+580	563	2,872
	2,350				2,309		
5	1779+608	643	3,030	5	1803+618	570	2,991
	2,387				2,421		
6	1734+593	614	2,941	6	1717+591	568	2,876
	2,327				2,308		
7	1794+595	704	3,093	7	1773+614	661	3,048
	2,389				2,387		
8	1793+600	694	3,087	8	1726+610	645	2,981
	2,393				2,336		
9	1721+595	669	2,985	9	1602+594	621	2,817
	2,316				2,196		
10	1819+620	661	3,100	10	1696+615	641	2,952
	2,439				2,311		
11	1685+577	674	2,936	11	1689+572	649	2,910
	2,262				2,261		
12	1668+585	709	2,962	12	1728+619	692	3,039
	2,253				2,347		
1	1757+604	709	3,070	1	1791+613	668	3,075
	2,361				2,407		
2	1585+560	669	2,814	2	1674+564	597	2,835
	2,145				2,238		
3	1730+602	730	3,062	3	1802+620	647	3,060
	2,332				2,422		
合計	27,954	8,072	36,026	合計	27,943	7,522	35,456
前年比		長期入所	11	短期入所	550	計	561

[長期入所]

○実績：延 11 人増

○実績アップの要因

- ・新型コロナの感染防止で外泊制限があった。
- ・看取りケアを希望する方が増えた。(入院せずに施設で出来る範囲での最後を希望される方が増えている。)

○今年度の状況

- ・退所者数広域型 15 名、地域密着型 5 人、合計 20 名であった。新型コロナウイルスの影響で実態調査もままならない部分があり、待機者事態も減少している。その為、入所までの時間がかかっている。
- ・要介護度の高い方の入所で、施設在籍期間が短くなっている。その為、退所から入所の空床期間が増えている。
- ・入院者が例年同様に、長期化している。(新年度入院期間 3 カ月の見直しがある予定。)

[短期入所]

○実績：延 550 人増

○実績アップの要因

・昨年度 4 月から 6 月までセミプライベート工事の為、2 床から 4 床短期入所の部屋を使用した
ので実績ダウンとなったが、今年度はフルで回転出来ている。

・新型コロナウイルス関係でキャンセル等もあったが、キャンセル待ちの利用者をうまく入れ込
み、落ち込みを極力減らしている。長期の空床利用が増えている。

・月の半分程度利用していた方が、上期だけで 4 名長期入所になった。その分も新規利用者確保
でなんとか実績確保できている。

2. 日常生活状況

(広域型)

ADL内容	食 事					移乗動作				移動手段				入浴		
	自 立	見 守 り	一 部 介 助	全 部 介 助	経 管 栄 養	自 立	見 守 り	一 部 介 助	全 部 介 助	歩 行	歩 行 器 等	車椅子		機 械 浴	パ チ エ イ ス ン	個 浴
												普 通 型	そ の 他			
実数(人)	0	29	13	4	13	0	15	20	25	1	4	39	16	15	16	29

(地域密着型)

ADL内容	食 事					移乗動作				移動手段				入浴		
	自 立	見 守 り	一 部 介 助	全 部 介 助	経 管 栄 養	自 立	見 守 り	一 部 介 助	全 部 介 助	歩 行	歩 行 器 等	車椅子		機 械 浴	マ ン ツ ー マ ン	2 人 介 助
												普 通 型	そ の 他			
実数(人)	0	10	5	5	0	0	7	3	10	2	2	15	3	5	10	5

※昨年度との違いとしては広域型、地域密着型共に食事介助者がかなり増えている。

(広域型)

ADL内容	日中排泄				夜間排泄				離床センサー		身体拘束	
	ト イ レ	P ト イ レ	フ オ ー レ	ベ ツ ト 上	ト イ レ	P ト イ レ	フ オ ー レ	ベ ツ ト 上	あ り	な し	あ り	な し
実数(人)	24	0	3	28	9	3	3	45	19	41	0	60

(地域密着型)

ADL内容	日中排泄				夜間排泄				離床センサー		身体拘束	
	トイレ	Pトイレ	フロア	ベット上	トイレ	Pトイレ	フロア	ベット上	あり	なし	あり	なし
実数(人)	14	0	1	5	6	0	1	13	10	10	0	20

※特徴として、広域型も地域密着型も日中のトイレ誘導にちからを入れ対応できている。

3. 個別機能訓練状況

(1) 長期入所(広域)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
実施日数	29	31	30	30	31	30	31	29	31	30	28	31	361
実人数	60	58	59	60	60	59	61	60	57	59	58	59	710
延回数	583	651	510	508	522	507	484	482	708	706	569	580	6,810

(2) 長期入所(地域)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
実施日数	29	29	29	29	29	30	31	27	31	29	27	31	351
実人数	20	20	21	20	20	20	20	21	20	20	20	21	120
延回数	250	284	276	267	257	260	263	232	239	228	201	184	2,941

(3) 短期入所

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
実施日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	30	28	31	364
実人数	67	62	66	74	71	73	74	76	73	73	73	74	856
延回数	589	638	612	699	691	676	657	667	706	679	658	718	7,990

■担当所見

○利用者様の入れ替わりはあったがADL状況に著明な変動なく経過した。

ある程度の心身状態の維持が図れたことと、介護技術の向上による影響が考えられる。

○リハビリにおいては全体的な実績は極端な変動なくある程度安定している印象。

長期広域型、短期においてやや実績の伸びが大きい部分は体操やレクのやり方やフロア等の調整を行っていたことで変動が起きている様子。

4. 施設ケアプラン作成状況

広域型

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
継続	10	10	10	10	18	12	8	7	11	14	16	11	137
新規	1	0	1	2	1	2	2	1	3	0	0	1	14
看取り	1	1	2	1	2	1	0	1	1	0	0	2	12
合計	12	11	13	13	21	15	10	9	14	14	16	14	163

地域密着型

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
継続	3	2	6	8	5	2	2	3	6	7	4	1	26
新規	0	0	2	0	0	1	0	1	0	0	0	0	3
看取り	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	2
合計	3	3	8	8	6	3	3	4	6	7	5	1	31

5. 日常生活自立度

利用者数に占める日常生活自立度ランクⅢ、Ⅳ、またはMの利用者数の割合（認知症専門ケア加算取得要件）

広域型

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
【A】利用者数（人）	61	58	59	60	60	60	61	61	58	59	58	59
【B】日常生活自立度ランクⅢ、Ⅳ、またはMの利用者数（人）	45	43	44	45	44	44	44	43	40	42	41	41
【B】／【A】（％）	73.8	74.1	74.6	75.00	73.3	73.3	72.1	70.5	69	71.2	70.7	69.5

地域密着型

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
【A】利用者数（人）	20	20	21	20	20	21	20	21	20	20	20	21
【B】日常生活自立度ランクⅢ、Ⅳ、またはMの利用者数（人）	15	15	16	16	16	17	16	16	15	15	15	16
【B】／【A】（％）	75.00	75.0	76.2	80.0	80.0	81.0	80.0	76.2	75	75	75	76.2

6. 行事報告※

■広域型

月	日	項 目	場 所	参 加 者
令和2年 9月	19日	敬老会(なでしこ棟)	ホーム食堂	24名
	9月 17日	敬老会(ななかまど・さくら棟)	ホーム食堂	20名
	9月 18日	敬老会(よもぎ棟)	ホーム食堂	20名

■地域密着型

月	日	項 目	場 所	参 加 者
令和2年 9月	27日	敬老会(あじさい・ひまわり棟)	ホーム食堂	16名

※施設にて企画したものを“行事”としているため、ボランティアによる訪問交流は含めていません

ii 健康支援領域

一 事業計画の現況 : 看護

項 目	内 容
1、健康の維持管理に努める	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全員検温や体調観察、手洗い・マスク着用・3密を重点に新型コロナウイルス感染予防を主に取り組んだ。 ・ 各フロアに担当Nsを配置するフロア制導入により更に個々人の体調把握が可能になってきた。 ・ 感染対策の周知を図り指導を行ってきた。
2、スキルアップに努める	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染発症により外部研修参加等が殆どできない状態であったがオンライン会議や内部研修によりスキルアップを図ってきた。 ・ ユニットケアの理解を深めより良い個別ケアを目指しているが理解不足の状態である。 ・ 安全・安心なケアを提供できるようにスタッフ間で意見や指導を行いスキルアップに努めた。
3、多職種との連携を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護士喀痰吸引修了者の実践に取り組み実施している。 ・ フロア制により多職種との情報共有を図りより良いケアにつながられた。 ・ 相談員と情報共有をし早期の退院を図ったが重症度も高く入院の猶予期間もあり長期になってしまった。

■主担当者所見

- ・新型コロナウイルス感染対策強化によりインフルエンザの発症がなかったのは良かったが新型コロナウイルス感染拡大も続いており引き続き感染予防に努めると共に万一来るに備えての対応の検討も必要である。
- ・外部研修参加も新型コロナウイルス発症により殆どできない状態ではあったがオンライン研修や内部研修によりスキルアップが図れた。
- ・フロア担当制により多職種との情報共有がスムーズに図れてきた様である。
- ・重症化もあるが早期退院ができない課題を検討し対策を図る必要がある。

一 事業計画の現況 : 栄養

項目	内容
1. 自立支援への取り組み	(1) 食事ケア (2) 水分ケア (3) 排泄ケア
2. 栄養ケアマネジメントの実施	(1) 栄養ケアの提供 (2) 経口摂取維持の取り組み (3) 医療機関との栄養連携強化
3. 安心・安全な食事の提供	(1) 安全な食事の提供 (2) 衛生管理 (3) 非常食等の備蓄管理
4. おいしく喜ばれる食事の提供	(1) 楽しい食事の演出 (2) 食事満足度の向上 (3) 情報発信
5. 食事面からの看取りケア	入所時の面談や定期的担当者会議、嘱託医との面談に出席しご利用者様やご家族の意向などを確認し、その意向に沿った、望む最期を迎えられるように食事面から支援していく。

■主担当者所見

- 1、多職職員連携にて、おいしく安全な食事の提供に努めています。
- 2、新規利用者様や状態が変わった利用者様に対して、ミールラウンドを多くし、必要な情報を収集し状態把握に努めています。
- 3、ムセリや咳き込みなどがみられる摂食嚥下障害が疑われる利用者様には、経口維持加算を算定し、口から食べることを継続できるように支援しています。
- 4、非常食の見直しを行い、どの食事形態のご利用者様にも提供できるソフトゼリータイプのものを新規購入・備蓄し、ローリングストックとして食事提供しています。
- 5、給食委員会にて嗜好調査を行い、より良いおやつ提供に努めました。
- 6、新型コロナウイルスの影響で入所時の面談や嘱託医と家族との面談など同席が難しくなっているが、記録などを通してご利用者様やご家族の意向などを確認しています。
- 7、食事が入らなくなってきた看取り対応のご利用者様にも、最後まで食事を提供し声かけや香りなどで食事を感じてもらうようにしています。
- 8、コロナ禍で家族の面会が少ない中、ご利用者様の好きだったものなどをご持参していただくことが難しい状況でした。対応を検討していきます。

二 その他

1. 病院受診状況

診療科 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
内科	15	7	11	9	9	10	14	16	12	14	11	11	139
神経内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外科	5	3	3	3	1	0	3	0	3	5	2	2	30
整形外科	3	0	1	2	1	4	2	4	4	4	1	2	28
耳鼻科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
脳外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	0	1	0	1	1	0	1	0	2	0	1	0	7
消化器科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼科	1	2	3	5	5	1	1	2	1	1	0	2	24
内分泌科	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
循環器科	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2
皮膚科	0	0	0	4	1	1	0	2	2	1	1	1	13
外傷再建外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
精神科	14	14	14	13	13	12	12	10	10	11	12	12	147
歯科	6	4	1	4	2	1	1	1	0	0	0	4	24
救急	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	3
計	20	18	16	21	16	15	13	14	12	12	14	18	189

2. 入院状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人数	3	1	3	2	2	2	3	8	5	2	3	3	37
延日数	138	13	67	89	58	34	51	295	76	143	84	37	1,085

■ 受診状況について

・191件と昨年の439件に比べ約半分に減少している。内科・外科・整形外科はほぼ変わらずも歯科・救急・専門外来受診が減った為である。歯科は口腔ケア、救急は異常の早期対応の充実が図られてきた為と思われる。専門外来においても嘱託医や協力病院対応でも可能になってきた状態と思われる。

■ 入院状況について

・37件と昨年の50件に比べ減少しているが入院日数の平均は29.3日と昨年の30.7日とほぼ同じで重症化により長引く傾向にあるのではないかとと思われる。

3. 栄養管理状況

(1) 食事摂取基準算定

年齢	性別	人数	熱量 (kcal)		蛋白質 (g)	
			推奨量	人数計	推奨量	人数計
50-64	男	1	2,200	2,200	60	60
	女		1,650	0	50	0
65-74	男	2	2,050	4,100	60	120
	女	5	1,550	7,750	50	250
75-	男	12	1,800	21,600	60	720
	女	59	1,400	82,600	50	2,950
合計		79		118,250		4,100
推定平均必要量				1,497		52
摂取基準				1,550		55

(2) 月別提供料

区分 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
熱量 (kcal)	1622	1618	1632	1609	1637	1635	1628	1635	1637	1609	1632	1618	1626
蛋白質 (g)	58.9	57.8	58.2	58.3	58.1	58.1	57.9	58.1	58.1	58.3	58.2	57.8	58.2
脂質 (g)	42.3	42.4	42.7	41.6	43.0	42.6	43.1	42.6	43.0	41.6	42.7	42.4	42.5
カルシウム (mg)	606	603	602	591	617	599	587	599	617	591	602	603	601
鉄 (mg)	7.1	7.1	7.1	7.1	7.2	7.3	7.1	7.3	7.2	7.1	7.1	7.1	7.2
ビタミンC (mg)	75	78	74	70	70	71	71	71	70	70	74	78	73
塩分 (g)	8.4	8.5	8.7	8.5	8.3	8.4	8.4	8.4	8.3	8.5	8.7	8.5	8.5

(3) 療養食ほか

項目		上期	下期
糖尿病食	1,400kcal	2	2
	1,200kcal	2	2
	1,000kcal	2	1
塩分制限食		3	2
経口維持加算		20	24
経口移行食		0	0

(4) 摂取状況

		上期	下期
		人数	人数
主食	飯	15	15
	おにぎり	0	0
	軟飯	18	13
	全粥	25	28
	ミキサー粥	10	11
	経管	12	12
	計	80	79
副食	常食	20	17
	きざみ食	19	17
	超きざみ食	18	19
	ミキサー食	11	14
	計	68	67
提供量	常量	9	5
	ハーフ	20	21
	主食ハーフ食	11	12
	主食小盛	28	25
	主食大盛	0	1
	副食ハーフ	3	4
代替、栄養補助食品	ヨーグルト	9	2
	ヤクルト	18	22
	とろみ調整食品	23	18
	栄養補助食品ゼリー	6	3
	栄養補助食品ドリンク	0	0

(5) 栄養ケアマネジメント

リスク分類	上期		下期	
	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)
低リスク	28	35	26	33
中リスク	43	54	38	48
高リスク	8	10	15	19

リスク内容 (複数あり)		上期	下期
中リスク	BMI 低値 (18.5未満)	17	17
	体重減少率高値 (3~5%未満/月)	2	6
	アルブミン低値 (3.6g/dl以下)	27	27
	食事摂取量不良 (75%以下)	1	4
	経管栄養食	7	7
高リスク	体重減少率高値 (5%以上/月)	0	3
	アルブミン低値 (3.0g/dl以下)	5	9
	褥瘡形成	3	4

改善			低下		
リスク分類	内容	人数	リスク分類	内容	人数
中リスク→低リスク	アルブミン値改善	2	低リスク→中リスク	アルブミン値低下	5
	BMI 改善	1		BMI 低下	4
	体重減少率改善	2		体重減少率高値	3
				食事摂取量不良	1
高リスク→低リスク	アルブミン値改善	1	低リスク→高リスク	アルブミン値低下	1
				体重減少率高値	1
				褥瘡形成	1
高リスク→中リスク	アルブミン値改善	1	中リスク→高リスク	アルブミン値低下	5
				体重減少率高値	1

IV 第二事業課事業報告書

i 在宅福祉支援領域

一 事業計画の現況

項目	内容
笑顔が見られる風土の醸成	職員は利用者の要望に応えるべく努力しようとする姿勢が見られている。隙間時間を作り出来るだけ利用者と共に時間を過ごそうとする職員が増えている。何もしていない利用者は減少したが、 <u>選べるプログラムの持続性が低く</u> 、今後検討の余地あり。
連携を強化し内容の濃いサービスを提供する	コロナ禍の中で会議に時間を割くことが出来ず、個別ケアの検討時間が減少しているが、必要最低限の情報伝達はホワイトボード等の活用で補えている。外部への情報発信はデイサービス便りにて継続。
個別機能訓練・総合事業の実施	自分で出来ることは自分で行って頂き、過介護を減らすことが徐々に出来ている。認知症や障害に対する理解が足りないと感じている職員が多い。
質の高いサービスを継続する為の経営意識の醸成	加算に対する知識がまだまだ足りていないと感じている職員が多い。また、知っていてもどの様に現場に落とし込んでいくかわからないという職員もいる。勉強会をして欲しいという希望もある。

■主担当者所見

- ・上記4項目においてほとんどの職員が、自身や体制について何らかの問題点を見出し、前に進もうという意欲が見て取れる。
- ・外部研修参加を予定していたが新型コロナウイルス発症により参加が難しくなり、オンラインによる研修参加も可能な限り対応しスキルアップにつなげていきたい。
- ・現状利用している利用者への有益なサービス提供や職員の資質向上は前進しているが、利用実績が伸びず減収となってしまった。現状のサービスで提供している有益性を維持しながらも、今後も各居宅へPRしていくことが求められる。利用者の笑顔を指標としながら、取り組みを拡大していきたい

二 その他

デイサービス

1. 要介護度別利用実績

要介護度	性別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
事業対象者	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	小計	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
要支援1	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	9	9	9	9	9	10	10	10	11	9	8	8	111
	小計	9	9	9	9	9	10	10	10	11	9	8	8	111
要支援2	男	3	2	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	30
	女	4	4	5	5	5	5	5	5	4	5	4	4	55
	小計	7	6	8	8	8	8	8	7	6	7	6	6	85
要介護1	男	3	4	4	4	4	5	5	4	4	3	3	4	47
	女	20	16	18	18	17	18	16	16	16	16	15	14	200
	小計	23	20	22	22	21	23	21	20	20	19	18	18	247
要介護2	男	2	2	2	3	3	3	3	3	2	2	2	1	28
	女	20	20	19	20	20	20	22	22	22	20	21	22	248
	小計	22	22	21	23	23	23	25	25	24	22	23	23	276
要介護3	男	4	4	4	4	4	4	4	3	3	2	1	1	38
	女	15	15	16	15	15	14	13	12	14	13	12	15	169
	小計	19	19	20	19	19	18	17	15	17	15	13	16	207
要介護4	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	2	5
	女	3	3	3	4	3	4	2	3	5	5	4	3	42
	小計	3	3	3	4	3	4	2	3	5	6	6	5	47
要介護5	男	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	11
	女	0	0	0	1	1	1	1	0	1	1	0	0	6
	小計	1	1	1	2	2	2	2	1	1	2	1	1	17
障害	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	3
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	3
合計	男	13	13	14	15	15	16	16	13	11	12	12	12	162
	女	72	68	71	73	71	73	70	69	74	70	65	67	843
	小計	85	81	85	88	86	89	86	82	85	82	77	79	1005
利用者 延人数	男	85	93	98	102	106	102	108	89	76	72	71	87	1089
	女	429	411	449	468	458	466	447	423	459	396	380	443	5229
	合計	514	504	547	570	564	568	555	512	535	468	451	530	6318

4月～提供日の縮小により1日の稼働率は向上する見込みだったが、新型コロナウイルス

ス感染症に対する警戒から4～5月と実績が急落してしま。自粛明けから緩やかに改善傾向。秋にかけて平均利用者数が伸びるかと思われたが、長期間の入院者の増加で低迷。新規利用者の獲得についても、新規案件自体が少なかった。R3.1月より障害の新規あり今後も各居宅へPRして行きたい。

訪問入浴

1. 月別利用実績

項目\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
利用者実数	9	9	7	9	8	11	10	10	8	8	6	4	99
延実施日数	8	8	9	8	8	9	9	4	5	4	4	4	80
延利用回数	24	20	30	22	28	32	31	22	26	18	19	9	281
1日平均	3	3	3	3	4	4	3	6	5	5	5	2	45
登録者数	9	9	7	9	8	11	10	10	10	9	7	5	104

2. 要介護度別利用者

要介護度	1	2	3	4	5	障害者	計
人数	0	1	0	2	1	2	6

要支援
0名

- ・新規登録はあるが、終末期にて契約維持が困難。
- ・登録利用者数実績は昨年より減少。11月より稼働日縮小し週に1日となり調整。
- ・令和3年4月より一時サービス休止の為、3月中に他事業所に引継ぎ変更となる。

ii 居宅介護支援領域

一 事業計画の現況

○自立支援

項目	内容
1. 在宅での自立した生活を送れるよう支援する。	<p>本人の状態変化により介護者の負担が増え、認定区分変更、計画の見直し、サービス調整などの対応を行ったケースが集中した時期があった。</p> <p>本人ができていないこと、家族の支援があればできることをアセスメントし、サービスを利用することでより生活の質が高くなることを意識して支援を行った。</p> <p>本人、代理人と他の同居家族との意見調整が困難なケースが1件あり</p>

	営業時間外の相談対応を行った。
2. 行政や医療機関との連携を密にし、サービス事業者と連絡調整を行う。	<p>入退院時の医療機関との連携は退院時調整ルールの活用によりスムーズになってきているが、新型コロナウイルス感染症対策で家族も退院するまで面会ができず、本人の状態も分からず退院となり、急遽、主治医変更、訪問看護、訪問介護、福祉用具の調整など、サービス変更が必要となったケースが多かった。</p> <p>病院から情報では入院前と状態が変わらないと考えられたケースでも新たなサービスが必要な場合があり、実際には退院前に本人との面会は不可欠だった。</p> <p>新型コロナ感染対策で一時期町外医療機関受診に伴う事業所の利用制限等がありクリニックからの問い合わせに対応したケースが1件、</p> <p>状態変化により主治医に入院調整を依頼したケースが2件あった。</p>
3. 特定事業所を維持する。	<p>24時間相談体制についてはフローチャートが明確でなかったため、見直し整備した。</p> <p>部内会議、包括の勉強会、自立支援型地域ケア会議等によりインフォーマル（社会資源）や保健医療、福祉に関する諸制度などの理解を深め処遇困難なケースに対応できるよう、ケアマネジメントに関する技術のスキルアップに努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 部内会議：週1回開催 ・ 包括勉強会：5回 ・ 自立支援型地域ケア会議：5回 ・ 入院時情報提供：計52件 ・ 他法人との共同の事例検討会・研究会：1回

■主担当者所見

昨年同様、利用者の介護度が重くなるのに伴い在宅生活の継続が難しく、家族が施設入所を選択するケースが多くなっている。今年度は認定更新となる利用者が少なく、新型コロナウイルス感染防止の観点から病院や老人保健施設等から退院退所し自宅に帰る動きにも滞りがみられ、新規相談件数の伸び悩みが見られた。また、状態が改善し要介護から要支援に移行する利用者も増えていることも計画件数低迷の要因と考えられる。

「自助」「互助」の視点でのインフォーマルサービスの計画への位置付けが求められ、また、家族背景も多様化しているため介護支援専門員に求められる役割は大きく、仕事量は増えている。

二 その他

基本方針

本人が自立した生活を送れることを目指し、適切にサービスを利用できるよう、心身の状況や生活環境、本人・家族の希望等に沿って、ケアプラン（居宅サービス計画）を作成、ケアプランに位置づけたサービス事業所等との連絡・調整などを行います。

1. 要介護認定訪問調査実施状況

年度	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
R 1		15	19	14	22	13	16	12	21	18	18	10	5	183
R 2		10	4	14	14	8	14	6	11	15	5	12	16	129

今年度の認定調査実施状況については集計表の通りであり、1名においては新任のため年度当初件数を調整し実施した。認定有効期間が2年間となっている兼ね合いもあり今年度は調査依頼も少なく、介護支援専門員1人当たりの調査数は月間2.6件となっている。

2. 居宅サービス計画作成実績

年度	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
R 1		146	146	146	150	147	149	145	144	140	136	131	131	1,711
R 2		129	126	128	126	126	128	124	121	123	119	121	125	1,496

異動により1名が新任職員となった。新型コロナウイルス感染防止の影響もあり、病院や老人保健施設等から退院退所の相談などが例年より少なく相談件数の動きは少ない現状にあった。今年度の計画作成件数実績は集計表の通りであり介護支援専門員1人当たりの月計画作成平均件数は31.4件となっているが、介護支援専門員により作成件数に偏りがあった。

3. 計画作成依頼登録数

性別	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
男 性	継続	34	34	33	31	32	33	33	32	32	34	35	34	397
	新規	2	0	1	1	1	0	0	1	3	1	0	0	10
	終結	2	1	3	0	0	0	1	1	1	0	1	1	11
	小計	34	33	31	32	33	33	32	32	34	35	34	33	396
女 性	継続	131	130	130	126	125	126	125	124	123	125	129	125	1,519
	新規	1	1	0	0	1	2	1	1	5	4	2	4	22
	終結	2	1	4	1	0	3	2	2	3	0	6	2	26
	小計	130	130	126	125	126	125	124	123	125	129	125	127	1,515
合 計		164	163	157	157	159	158	156	155	159	164	159	160	1,911

V 委員会報告

一 苦情解決委員会

開催日	要点
第1回令和2年4月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見箱1件 第一事業課 内容 週1回麺類を出してほしい 対応 給食委員会にて検討。 <ul style="list-style-type: none"> ・委員長選出・年間活動計画立案と分担
第2回令和2年5月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見箱0件 4月ご意見について、月2回ミニで提供 <ul style="list-style-type: none"> ・スローガンの決定・職員写真の掲示 ・令和元年度きらり賞決定
第3回令和2年6月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・5月14日メールにて苦情1件 内容 居宅の24時間相談体制について 対応 フローチャートを作成し周知する。 <ul style="list-style-type: none"> ・4月ご意見について、毎週1回提供へ
第4回令和2年7月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見箱0件 <ul style="list-style-type: none"> ・きらり賞の表彰を(白鳥)へ掲載 ・面会制限解除に伴い、職員写真の整備状況確認
第5回令和2年8月3日	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見箱2件 第二事業課 内容 チェック用紙 前と違いずるい 対応 いなけんにて(人格の尊重とは)職員間研修
第6回令和2年9月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見箱1件 第一事業課 内容 半年ぶりの面会 安心した感謝の手紙 <ul style="list-style-type: none"> ・8月ご意見についての取り組み ・上期報告について
第7回令和2年10月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見箱0件 <ul style="list-style-type: none"> ・第三者委員定期報告会 ・新型コロナウイルス感染予防対策について報告
第8回令和2年11月2日	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見箱0件 <ul style="list-style-type: none"> ・下期事業報告について取り決め
第9回令和2年12月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見箱0件 <ul style="list-style-type: none"> ・職員会報告発表について 内容決定、分担

第 10 回令和 3 年 1 月 4 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ ご意見箱 0 件 ・ 4 月定期報告会について伝達
第 11 回令和 3 年 2 月 1 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ ご意見箱 2 件 内容 ①外出できないのがつらい ②手助けへの感謝の言葉
第 12 回令和 3 年 3 月 1 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ ご意見箱 0 件 ・ 経過報告 ①施設対応病院以外の病院受診、 入退院時の送迎について ②外出できないことについて ・ 定期報告会についての伝達

■委員長所見

令和元年度も「きり賞」にて表彰を行い、職員全体のレベルアップを図っています。今年度のスローガン『まず聴いてみよう、みんなで考える、できる方法を』で主体である利用者様の意思を尊重した行動ができるよう目指しています。また 8 月から全職員の写真をフロアごとに掲示し、利用者様ご家族様との信頼関係に役立てています。

今年度はコロナウイルスの影響にて面会の制限や外出制限を行わざるおえない状況となっていた。それにより面会できたことによる感謝の意や、外出したいといった普段は聞かれづらいご意見がみられた。それに対し具体的な解決法の提示ができない分、精神的フォローが重要であったと考える。ご意見に対し十分な返答や対応ができなかったり、経過を追うことが不十分となっているところもあった為、来年度への課題として挙げることにした。

二 ケア向上委員会

開催日	要点
R 2 . 4 . 2 4	委員長選出。 年間活動計画の決定。
R 2 . 5 . 1 5	提供表を基に利用者の個別ケア検討。 6 月からのオンライン面会方法の立案。
R 2 . 6 . 6 6 . 1 9	オンライン面会の実施。ｽｲｯﾌﾟの使い方の指導。 岡本先生をﾌﾞﾞﾞｰﾊﾞｰに迎えた個別ケア検討会の実施。
R 2 . 7 . 2 5	利用者の個別ケア検討（体圧測定器を使った車椅子の座面調整等） 岡本先生による勉強会『ケアの可視化について』

R 2. 8. 2 2	利用者の個別検討（移乗困難な方の介助方法やポジショニング検討等） 岡本先生による勉強会『腋窩介助について』
R 2. 9. 2 6	利用者の個別検討（カットアウトテーブル・スプリットの作り方作成等）
R 2. 1 0. 3 1	利用者の個別検討（移乗困難な方の介助方法やポジショニング検討等） 岡本先生による勉強会『拘縮予防について』
R 2. 1 1. 2 1	利用者の個別検討（移乗困難な方の介助方法やポジショニング検討等） 岡本先生による勉強会『移乗・腋窩介助について』
R 2. 1 2. 2 9	利用者の個別検討（移乗困難な方の介助方法やポジショニング・嚙下姿勢の改善検討等）
R 3. 1. 1 8	利用者の個別検討（移乗困難な方の介助方法やポジショニング・トイレでの立位検討等）
R 3. 2. 2 7	利用者の個別検討（移乗困難な方の介助方法やポジショニング検討等） 岡本先生による勉強会『手浴の効果について』
R 3. 3. 2 2・2 3・2 4 R 3. 3. 2 7	職員会『看取りケアについて』実施 3月職員会の反省・一年間の振り返り

■委員長所見

岡本先生による勉強会を実施し、拘縮予防のポジショニングや体交・移乗方法を学び、介助の仕方は全部同一ではなく、それぞれ違う介助の仕方があっていいと気づくことが出来た。来期はそれを踏まえて、利用者に合った個別ケアができるよう委員のスキルアップを目指していきたい。

三 ボランティアマネジメント委員会

開催日	要点
R2. 4. 28	委員長及び副委員長選出 昨年度ボランティア活動実績報告
5. 28	ボランティア活動、ボランティア施設受入について。社会情勢により受入、参加できない状況。施設内の車椅子清掃を計画する。7月22日予定。ベルマーク集めを行う。
7. 22	委員を中心に職員で車椅子清掃を行う。
7. 29	車椅子清掃の反省。ベルマーク集めを継続。
10. 19	状況報告行う。社会情勢によりボランティア施設受入、職員の参加共に行えない状況続く。ベルマークを猪苗代中学校に寄付予定。
2. 26	1. 22 猪苗代中学校にベルマーク合計 4138 点を寄付した事を報告する。

■委員長所見

1年を通して社会情勢により、ボランティアによる交流や参加ができない状態が続いている。受入や参加が可能となればすぐにでもボランティア活動の受入、参加が可能となるよう準備を整える。

ベルマーク集めを行い、無事に寄付を行えた。今後もベルマーク集めは継続していきたい。今後、ベルマーク集め以外の感染症の心配がないボランティアを探して行ってきたい。

四 リスクマネジメント（身体拘束等適正化対策検討）委員会

開催日	要点
R2. 4. 30	委員長選出。 前年度の活動報告。

5. 14	年間計画について。
6. 24	インシデント様式・事故発生報告書について。 スピーチロックの現状について。
7. 28	スピーチロックの現状。 身体拘束廃止について。
8. 26	スピーチロックの現状。 身体拘束廃止について。 朝の 6 時から 7 時の時間帯、事故なく離床するにはどうしたらよいか。
R2. 9. 30	スピーチロックの現状について
10. 28	上期の事故振り返りについて 身体拘束適正化指針について 各フロア職員に回覧する。
11. 30	ヒヤリハットと事故の区分
12. 29	介護事故防止に向けて スピーチロックについて、月毎の禁止ワードを各フロアに掲示する。
R3. 1. 25	誤嚥・誤飲を防止するために
2. 23	緊急時対応マニュアルについて スピーチロックについて、月毎の禁止ワードを各フロアに掲示する。

3. 24	介護現場での転倒・転落・骨折について
-------	--------------------

■委員長所見

スピーチロックの現状について、6月から8月にかけて委員会で話し合いを行いました。利用者様に対する言葉遣いが悪く、強い口調での発言が介護現場でみられている報告がありました。

今後は、職員間でお互いに言葉遣いが悪い場合は注意をして、改善していくようにフロア内で職員のほうから申し送りをしています。

下期では、上期での事故報告の現状から、どのようにしたら介護事故を減らせるかなどの取り組みについて、話し合いをしていきたいと考えています。下期では、介護現場における介護事故について、どのような対応や対策をすれば、介護事故が減らせるかどうか、職員で話し合いをしました。また、各フロアの職員にも、委員会での内容を周知してもらうために、資料の閲覧をし情報共有を図りました。

五 安全衛生委員会

開催日	要点
R2. 4. 19	委員長選出。 重要項目の決定。
5. 29	健康診断について 施設内安全衛生関係
6. 24	メンタルヘルスケア研修について 熱中症対策について
7. 30	メンタルヘルスケア研修の日程、課題について 熱中症対策の問題点について
8. 24	メンタルヘルスケア研修役割分担について その他（男子休憩室畳張替えについて）
9. 25	メンタルヘルスケアの反省会 その他（健康診断について）

10.23	健康診断健診キッドの割り振りについて その他（コロナウイルス対策等）
11.30	健康診断の結果について インフルエンザ対策について
12.15	施設内危険箇所について 感染症予防対策について（コロナウイルス・イン フルエンザ等）
3.1.18	施設内危険箇所について 感染症予防対策について（コロナウイルス・イン フルエンザ等）
2.1	コロナウイルスワクチン接種について 感染症予防対策について
3.9	転倒災害の再発防止自主点検報告書について 次年度健康診断について

■委員長所見

メンタルヘルス研修に関しては、前年と比較すると参加率は低かった。原因としては、新型コロナウイルスや介護職員向けの開催時間が少なかったこと、参加を職員の意欲任せにしている面が大きいと感じている。参加率を上げることが目標とするならば、日程調整だけでなく、働くことに対する意欲の向上や参加することに対して職員一人一人の意識が必要になってくると考える。

施設内安全面や衛生面への改善取り組みに関しては、設備取り付けや物品買い替えなどを少しずつ進めて対応しており、今後も継続して取り組んでいければよいと考えている。

健康診断、腰痛検診、インフルエンザ予防接種など委員会の職員だけでは、対応しきれないので総務との連携も必要。

男子休憩室はフローリングより畳の方が良いとの意見が多く、畳の張り替えを行った。

コロナウイルスワクチン接種だが、情報が届き次第周知する。

転倒災害の再発防止自主点検報告書についてだが、転倒しやすい箇所には危険予知のランプ等を付け周知をする。

六 予防医療（褥瘡ケア・感染症対策）委員会

開催日	要点
R2. 4. 1	・新型コロナウイルス感染対策について
4. 9	・委員長、副委員長選出 ・新型コロナウイルス感染対策について
4. 16	・新型コロナウイルス感染対策について ・ノロウイルス対応の再検討
4. 24	・新型コロナウイルス感染対策について
5. 1	・新型コロナウイルス感染対策について
5. 16	・職員 Fa PCR 検査施行
5. 19	・職員 Fa PCR 検査 (-)
5. 28	・年間計画について ・8 月勉強会について
7. 3	・新型コロナウイルス感染対策について ・8 月勉強会について
7. 31	・新型コロナウイルス感染対策について ・8 月勉強会について
8. 19	・職員配布のマスク袋詰め (施設物品委員会と共に)
8. 20~21	・勉強会 参加者：86 名 「新型コロナウイルス拡大防止対策のチェックリストについて」
8. 28	・職員 Fa PCR 検査施行

8. 31	・職員 Fa PCR 検査 (-)
9. 9	・新型コロナウイルス感染対策について 理容について
9. 12	・新型コロナウイルス感染対策について 町内役場職員 1 名陽性に対する対策
9. 13	・職員 Fa PCR 検査予定
10. 23	・新型コロナウイルス発症時対応フローチャートについて ・新型コロナウイルス感染対策について (ガラス越し面会等) ・1 月勉強会について
12. 23	・新型コロナウイルス感染対策について (感染拡大に伴う対応等) ・1 月勉強会…新型コロナウイルス関連内容で実施
R3. 1. 11	・町内新型コロナウイルス発症状況について ・緊急事態宣言発令区域へ行く場合
1/18~20	・勉強会 参加者 56 名 「新型コロナウイルス感染者との接触段階による 出勤について」
3. 10	・新型コロナウイルス感染症対策について (フローチャートの見直し等)

■委員長所見

・今年には新型コロナウイルスという新たな感染症が発症し治療薬も無い状態の為施設感染にならないように予防に取り組んだ1年でした。スタンダード予防や体調管理はもちろん面会制限や行動制限等大変辛い対応も行い発症することなく経過しています。インフルエンザも今年には1例も発症しませんでした。新型コロナウイルスワクチンの予防接種も始まったばかりの為まだまだ油断はできません。今後もより一層の感染予防に努め万が一に備えての対応や物品不足にならないように取り組んでいきます。

七 給食委員会

開催日	要点
R2. 4. 30	○委員長選出 ○年間予定について ○利用者からのご意見をいただいて
R2. 6. 4	○行事食について ○非常食について ○食中毒及び食器に嘔吐された時の対応について
R2. 7. 22	○行事食について ○夏まつりについて ○嗜好調査について
R2. 9. 24	○行事食について ○嗜好調査の結果について ○備蓄用食品の検討
R2. 11. 27	○行事食について ○職員会（2月）での発表について
R2. 12. 21	○なでしこ棟利用者窒息事故振り返り
R3. 2. 22	○行事食について ○今年度の反省

■委員長所見

計画通りに実施できていた。今後も他職種、他フロアと連携し継続して行っていく。
おやつに関する嗜好調査を行うことができ良かった。
冬期間にデイで鍋料理を提供し好評だった。
利用者の誤嚥事故が発生してしまい、臨時の委員会を開催した。
多職種連携し今後も良い給食を提供していきたい。

八 研修委員会

開催日	要点
R2. 5. 7	事業計画：委員長、副委員長選出 計画の方向性について
R2. 6. 24	アンケート実施：今後の計画立案、広報白鳥執筆
R2. 7. 20	職員会認知症について講和：2回実施

R2. 7. 21	職員会認知症について講和：1 回実施
R2. 7. 29	いなけん実施報告：いなけん実施方法の検討
R2. 8. 26	いなけん実施報告：計画について協議
R2. 9. 30	いなけん実施報告：ななかま棟 2 回実施
R2. 10. 28	いなけん実施報告：総務、第一事業課 2 回実施
R2. 11. 25	いなけん実施報告：いなけん実施方法の検討

■委員長所見

コロナウイルス渦により実施活動することに難あり。外部講師や外部へ出向くことは実施できず。

毎月最終水曜日に委員会を開催し少ない回数ではあるが各フロアや事業課でいなけんを実施している状況。

九 広報委員会

開催日	要点
R2. 4. 23	委員長選出、班分け。 令和 2 年度機関紙について。 機関紙白鳥第 101 号（春）について。
5. 8	機関紙白鳥第 101 号（春）について。 令和 2 年度活動計画について。
7. 17	機関紙白鳥第 101 号（春）について。 各班進捗状況について。
9. 30	機関紙第 103 号（秋）について。 各班進捗状況について。
10. 25	令和 2 年度機関紙について。 機関紙白鳥第 103 号（秋）について。

12. 18	機関紙白鳥第 104 号（秋）について。 令和 2 年度活動計画について。
R3. 2. 26	機関紙白鳥第 105 号（春）について。 各班進捗状況について。

■委員長所見

今年度は機関紙の他に、法人パンフレット制作班、法人ホームページ更新班に分かれ活動をし、意見をまとめて少しずつではあるが進めることができた。下期はより多く活動をして各班の取り組みを充実させたい。また、広報活動として法人内だけではなく地域にも情報を発信できるよう勉強会を計画する。

十 行事委員会

開催日	要点
令和 2 年 4 月 17 日	委員長選出 役割分担について
6 月 18 日	今年度開催する行事について
9 月 7 日	敬老会について 敬老会のプレゼントについて
9 月 9 日	敬老会について
9 月 17 日～27 日	敬老会の実施 さくら・ななかまど 9 月 17 日 よもぎ 9 月 18 日 なでしこ 9 月 19 日 あじさい・ひまわり 9 月 27 日 (各 30 分程度)
10 月 27 日	クリスマス会について

11月20日	クリスマス会について 歳の神について 第一倉庫棚購入について
12月4日	クリスマス会プレゼントについて 歳の神について 第一倉庫の整理(棚購入)について
12月18日～21日	◆クリスマス会の実施 さくら・ななかまど 12月23日、よもぎ 12月20日 なでしこ 12月18日、あじさい・ひまわり 12月18日 (各フロア30分程度)
令和3年1月8日	団子さし・歳の神について
1月9日	◆団子さしの実施
1月14日	◆歳の神の実施
1月22日	作品展とのコラボレーション 豆まきについて
2月2日～4日	◆豆まきの実施 さくら・ななかまど 2月4日、よもぎ 2月2日 なでしこ 2月3日、あじさい・ひまわり 2月2日 (各フロア30分程度)
2月27日	◆風船バレー大会の実施

■委員長所見

コロナ禍のため全利用者を集めての行事は実施困難であり、例年よりも規模を大幅に縮小し、フロア毎に実施するのみに留まった。

十一 施設物品管理委員会

開催日	要点
R2. 4. 22	委員長選出。 役割分担 他
5. 15	文書整理について 非常物品について
6. 20	非常用に備えるため、在庫の入れ替え 書庫整理について
7. 2 7. 22	書庫整理について 制服注文について 外倉庫の書庫整理
9. 30	制服注文取りまとめ 粗大ごみについて
11. 25	プラスチック手袋の配布の方法について。 床暖房期間の温度管理について 他
12. 29	粗大ごみについて プラスチック手袋配布枚数の確認と配布。
R3. 1. 20	3月末に外倉庫の備品を出す 車イスの管理
2. 13	車イスの修理
3. 27	外倉庫物品確認と、エンボス手袋を出し配布する。

■委員長所見

コロナウイルスの世界中での蔓延により、物品の補充や故障等に直ぐに対応できなくなった。そ

の中、職員一人一人の意識を高めスローガンにもある『まず聴いてみよう、みんなで考える、できる方法を』で工夫してできることから仕事に臨むことが出来たと思っています。

十二 地域貢献推進委員会

開催日	要点
R2. 4. 21	委員長選出。 重要項目の決定。
R2. 8. 7	今年度の対外事業の中止の決定。 次年度、学校向けに何が出来るかの話し合い。
R2. 10. 21	次年度学校訪問に向けての進捗確認
R3. 3. 31	次年度について

■委員長所見

コロナ禍に伴い外部に向けての事業が中止になった。

次年度にむけての少しずつではあるが進めることが出来た。下期は会議の回数を増やし次年度にうまくつながるよう取り組んでいきたい。

十三 防災委員会

開催日	要点
R2. 4. 29	委員長選出。 重要項目の決定。
R2. 5. 28	放送のみの避難訓練を実施。 各フロアの消火栓等の設備点検。
R2. 6. 29	放送のみの避難訓練の実施。 職員会での消火訓練の実施。
R2. 7. 31	放送のみの避難訓練の実施。 事業継続計画（BCP）の作成。

R2. 8. 28	放送のみの避難訓練の実施。 事業継続計画（BCP）の作成。
R2. 9. 3	総合防災訓練の実施。 事業継続計画（BCP）の作成。
R2. 10. 14	放送のみの避難訓練の実施。 各フロアの設備点検。
R2. 11. 21	放送のみの避難訓練を実施。 各フロアの消火栓等の設備点検。
R2. 12. 15	放送のみの避難訓練の実施。 事業継続計画（BCP）の作成。
R3. 1. 23	放送のみの避難訓練の実施。 事業継続計画（BCP）の作成。
R3. 2. 19	放送のみの避難訓練の実施。 事業継続計画（BCP）の作成。
R3. 3. 23	総合防災訓練の実施。 事業継続計画（BCP）の作成。

■委員長所見

コロナウイルス蔓延の為規模を縮小した放送のみの避難訓練を実施していききました。設備点検に関しては各フロアの防災委員会の職員に確認していただき、不備等は見られていません。

下期は震度の大きい地震が発生し、余震も今後続くと思われるので万が一に備えたいと思います。

十四 未来プラン委員会

開催日	要点
R2. 4. 30	委員長選出。 重要項目の決定。
R2. 9. 22	進捗状況確認 1. 利用者満足度を高める事業 2. 地域福祉を増進する事業 3. 職員満足度を高める事業
R2. 10. 16	進捗状況確認 1. 利用者満足度を高める事業 2. 地域福祉を増進する事業 3. 職員満足度を高める事業

■委員長所見

進展している項目と出来ていない項目に差があった。進展の少ないものに主に委員会と連携を取りながら行うものが多かった。下期では密に委員会と連携を取りいなければ等の実施を進めていきたい。

十五 安全委員会

開催日	要点
R2. 5. 27	委員長選出。 事業所登録の進捗報告。
R2. 6. 26	事業所登録の進捗状況について 喀痰吸引緊急時のフローチャートについて
R2. 7. 30	事業所登録の進捗状況について 今年度喀痰吸引研修について
R2. 8. 27	事業所登録の進捗状況について

R2.9.29	今後の手続きについて
R2.10.26	地域密着型入居者の方より計画書作成を行う
R3.1.4	計画書進捗報告
R3.2.16	計画書の説明、同意進捗報告
R3.3.16	今後の実施について確認

■委員長所見

喀痰吸引事業所登録が終了。業務計画書においては、ご家族に来所、またはオンラインを使用しての説明を行った。電話での説明より伝わりやすかったと思う。来年度は実施の記録と報告、月1回の研修が必要である。